

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月 1日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-191684

[ST.10/C]:

[JP 2002-191684]

出 願 人

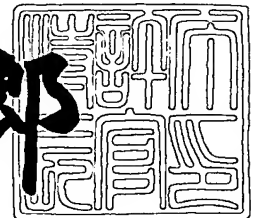
Applicant(s):

住友電装株式会社
本田技研工業株式会社

2003年 6月 2日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3041709

【書類名】 特許願

【整理番号】 414002081

【提出日】 平成14年 7月 1日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B60R 16/02

【発明者】

【住所又は居所】 三重県四日市市西末広町1番14号 住友電装株式会社
内

【氏名】 小林 良尚

【発明者】

【住所又は居所】 三重県四日市市西末広町1番14号 住友電装株式会社
内

【氏名】 鈴木 茂

【特許出願人】

【識別番号】 000183406

【氏名又は名称】 住友電装株式会社

【代理人】

【識別番号】 100089233

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉田 茂明

【選任した代理人】

【識別番号】 100088672

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉竹 英俊

【選任した代理人】

【識別番号】 100088845

【弁理士】

【氏名又は名称】 有田 貴弘

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012852

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9005280

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 車両用スライドドアの給電装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 線状に連結された複数のリンク部材によって構成され、その一端部が車体本体の車体側取付部に連結され、その他端部がスライドドアのドア側取付部に連結されるケーブルガイドと、

前記ケーブルガイドによって案内されて前記車体本体と前記スライドドアの間に配索される給電用のケーブルと、
を備え、

前記ケーブルガイドの前記各リンク部材の連結部において、連結される 2 つのリンク部材のうち一方のリンク部材が、他方のリンク部材に対して直線的に延びた状態から一方向にのみ屈曲するように屈曲方向が規制され、

前記ケーブルガイドは、長手方向に関して第 1 及び第 2 の区間からなり、前記各連結部における前記屈曲方向が、前記各区間内では同一方向に揃えられ、かつ前記各区間同士では互いに逆向きに設定され、

前記ケーブルガイドは、前記移動構造体がスライド移動する途中で長手方向の中間部分が平面視略 S 字形状をなすように屈曲するように配設されていることを特徴とする車両用スライドドアの給電装置。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の車両用スライドドアの給電装置において、
前記各リンク部材は前記ケーブルが挿通可能な略筒形形状を有し、前記ケーブルが前記ケーブルガイド内に挿通されて配索されることを特徴とする車両用スライドドアの給電装置。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の車両用スライドドアの給電装置において、
前記リンク部材は、
略筒形形状を有する胴部と、
前記胴部の一端部における互いに対向する両側の側壁部に設けられ、回転軸として機能する凸部と、

前記胴部の他端部における互いに対向する両側の側壁部に、その軸方向が両側の前記凸部と平行になるように設けられ、連結される相手側のリンク部材に設け

られる前記凸部が嵌合され、その凸部を回転可能に軸支する受け部と、

前記胴部的一端部に設けられた第 1 の当接部と、

前記胴部の他端部に設けられ、連結される相手側のリンク部材に設けられる前記第 1 の当接部と当接して相手側のリンク部材の回転可能範囲を規制することにより、前記相手側のリンク部材が自己のリンク部材に対して直線的に延びた状態から一方向にのみ屈曲するように屈曲方向を規制する第 2 の当接部と、
を備えることを特徴とする車両用スライドドアの給電装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用スライドドアの給電装置に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

この種の従来技術としては、スライドドア側と、車体本体側とに突き当て式の端子部を設け、スライドドアが閉鎖された際に、ドア側の端子部と車体側の端子部とが突き当たって電気接続され、その両端子部を介して車体本体側からドア側に給電を行うようにしたものがある。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の従来の構成では、スライドドアが閉鎖されているときにはスライドドアへの給電が可能であるが、スライドドアが開放されている状態では給電ができないという問題がある。

【 0 0 0 4 】

そこで、本発明は前記問題点に鑑み、スライドドアの開閉状態にかかわらずスライドドアへの給電を常時行うことができる車両用スライドドアの給電装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するための技術的手段は、線状に連結された複数のリンク部材

によって構成され、その一端部が車体本体の車体側取付部に連結され、その他端部がスライドドアのドア側取付部に連結されるケーブルガイドと、前記ケーブルガイドによって案内されて前記車体本体と前記スライドドアの間に配索される給電用のケーブルと、を備え、前記ケーブルガイドの前記各リンク部材の連結部において、連結される2つのリンク部材のうちの一方のリンク部材が、他方のリンク部材に対して直線的に延びた状態から一方向にのみ屈曲するように屈曲方向が規制され、前記ケーブルガイドは、長手方向に関して第1及び第2の区間からなり、前記各連結部における前記屈曲方向が、前記各区間内では同一方向に揃えられ、かつ前記各区間同士では互いに逆向きに設定され、前記ケーブルガイドが、前記移動構造体がスライド移動する途中で長手方向の中間部分が平面視略S字形状をなすように屈曲するように配設されていることを特徴とする。

【0006】

好ましくは、前記各リンク部材は前記ケーブルが挿通可能な略筒形形状を有し、前記ケーブルが前記ケーブルガイド内に挿通されて配索されるのがよい。

【0007】

また、好ましくは、前記リンク部材は、略筒形形状を有する胴部と、前記胴部の一端部における互いに対向する両側の側壁部に設けられ、回転軸として機能する凸部と、前記胴部の他端部における互いに対向する両側の側壁部に、その軸方向が両側の前記凸部と平行になるように設けられ、連結される相手側のリンク部材に設けられる前記凸部が嵌合され、その凸部を回転可能に軸支する受け部と、前記胴部の一端部に設けられた第1の当接部と、前記胴部の他端部に設けられ、連結される相手側のリンク部材に設けられる前記第1の当接部と当接して相手側のリンク部材の回転可能範囲を規制することにより、前記相手側のリンク部材が自己のリンク部材に対して直線的に延びた状態から一方向にのみ屈曲するように屈曲方向を規制する第2の当接部と、を備えるのがよい。

【0008】

【発明の実施の形態】

図1は本発明の一実施形態に係る車両用スライドドアの給電装置の平面図であり、図2は図1の給電装置においてスライドドアが開閉される際の様子を示す図

である。

【 0 0 0 9 】

この給電装置は、図 1 及び図 2 に示すケーブルガイド 1 と、給電用のケーブル 2（図 4 参照）とを備えて構成される。ケーブルガイド 1 は、線状に連結された複数の駒部材（リンク部材） 3 によって構成され、その一端部が車体本体 5 の車体側取付部 5 a に連結され、その他端部がスライドドア 7 のドア側取付部 7 a に連結されている。給電用のケーブル 2 は、そのケーブルガイド 1 によって案内されて車体本体 5 とスライドドア 7 の間に配索される。なお、図 2 において、スライドドア 7 が位置 P 1 に位置するときはスライドドア 7 が完全に閉鎖された状態（全閉状態）にあり、スライドドア 7 が位置 P 2 に位置するときはスライドドア 7 が一部開放された状態（半開状態）にあり、スライドドア 7 が位置 P 3 に位置するときはスライドドア 7 が完全に開放された状態（全開状態）にある。

【 0 0 1 0 】

ケーブルガイド 1 を構成する各駒部材 3 は、図 3 ないし図 5 に示すように、胴部 1 1 と、その胴部 1 1 の一端部に設けられ、回転軸として機能する一对の凸部 1 3 と、胴部 1 1 の他端部に設けられ、連結される相手側の駒部材 3 の凸部 1 3 を軸支する 1 対の受け部（ここでは受け孔） 1 5 と、胴部 1 1 の一端部に設けられる一对の第 1 の当接部 1 7 と、胴部 1 1 の他端部に設けられる一对の第 2 の当接部 1 9 とを備えて樹脂により形成されている。

【 0 0 1 1 】

胴部 1 1 は、略矩形筒状の形状を有し、給電用のケーブル 2 が挿通可能な内径を有している。胴部 1 1 の一端部の開口部における互いに対向する部分（図 3 では上下の側壁部分）が延設されてなる延設部分 1 1 a に、外側に張り出すように凸部 1 3 がそれぞれ設けられている。胴部 1 1 の他端部の開口部における互いに対向する部分（図 3 では上下の側壁部分）が延設されてなる延設部分 1 1 b に、受け部 1 5 がそれぞれ設けられている。凸部 1 3 と受け部 1 5 とは、両側の凸部 1 3 を結ぶ軸線と両側の受け部 1 5 を結ぶ軸線とが互いに平行（同一方向）になるように設けられている。

【 0 0 1 2 】

受け部 1 5 が設けられる両延設部 1 1 b の幅は、凸部 1 3 が設けられる両延設部 1 1 a の幅よりもやや広く設定されている。このため、駒部材 3 の連結部において、図 6 に示すように、一方の駒部材 3 A（図 6 参照）の両凸部 1 3 を、他方の駒部材 3 B（図 6 参照）の両受け部 1 5 に内側から嵌め込むようにして、両駒部材 3 が連結されるようになっている。このように連結された状態では、凸部 1 3 が受け部 1 5 に回転自在に保持され、これによって両駒部材 3 A、3 B の連結部において屈曲角度が可変となっている。

【 0 0 1 3 】

第 1 及び第 2 の当接部 1 7、1 9 は、駒部材 3 の連結部における屈曲方向 B（図 6 参照）を規制するための手段であり、2 つの駒部材 3 A、3 B が連結された際に、互いに当接可能な位置に設けられており、連結された 2 つの駒部材 3 A、3 B が直線的に伸びた状態で当接するようになっている。そして、この当接部 1 7、1 9 の規制により、連結部において、一方の駒部材 3 A が、他方の駒部材 3 B に対して直線的に伸びた状態から一方向の屈曲方向 B にのみ屈曲するように屈曲方向 B が規制されている。

【 0 0 1 4 】

ケーブルガイド 1 は、長手方向に関して第 1 及び第 2 の区間 C 1、C 2 からなる。各連結部における屈曲方向 B が、同一区間 C 1、C 2 内では同一方向に揃い、かつ各区間 C 1、C 2 同士では互いに逆向きになるように、駒部材 3 が連結されている。区間 C 1、C 2 の長さの大小は特に限定されないが、図 2 では、区間 C 1 の長さを、区間 C 2 の長さよりも短く設定した態様を示している。すなわち、車体側取付部 5 a 側から見たときの各連結部における屈曲方向 B が、第 1 の区間 C 1 内では図 1 の図面上において反時計回りの方向になるように、第 2 の区間 C 2 内では図 1 の図面上において時計回りの方向になるように設定されている。

【 0 0 1 5 】

このような構成は、図 6 に示すように、第 1 及び第 2 の当接部 1 7、1 9 が当接可能な態様で連結してなる所定長さの駒部材 3 の連鎖体を 2 つ用意し、その連鎖体同士を、図 6 に示す連結態様とは反対の連結態様（すなわち、図 6 において駒部材 3 A の第 1 の当接部 1 7 が上側に位置するような連結態様）で連結するこ

とにより得られる。

【 0 0 1 6 】

このように構成されるケーブルガイド 1 は、スライドドア 7 が移動する途中（特に車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a との間の距離が最も小さくなる状態）で、平面視略 S 字形状をなすように屈曲するように、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a との間に配設されている。車体側取付部 5 a 及びドア側取付部 7 a とケーブルガイド 1 との連結部 2 1, 2 3 では、取付部 5 a, 7 a に対してケーブルガイド 1 の駒部材 3 が回転可能に連結されている。

【 0 0 1 7 】

より具体的には、本実施の形態では、ドア側取付部 7 a は、スライドドア 7 の移動に伴い、車体側取付部 5 a から所定距離離れたスライド方向に沿って、車体側取付部 5 a を中間点としてその両側に移動する。

【 0 0 1 8 】

そして、スライドドア 7 が全閉位置 P 1 にあるとき（全閉状態）、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a との間の距離が最大となるとともに、ケーブルガイド 1 がスライドドア 7 のスライド方向に沿ってほぼ直線的に延びた状態となるようになっている。より具体的には、区間 C 2 は略直線状態となっており、区間 C 1 は車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a 間の距離を吸収するため段差状に屈曲している。なお、この状態では、ドア側取付部 7 a 及び車体側取付部 5 a はケーブルガイド 1 の各端部を、前述のスライド方向に沿って互いに対向するように支持している。

【 0 0 1 9 】

スライドドア 7 が移動途中で位置 P 2 に位置するとき（半開状態）、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a とが接近し、両者間の距離が上記全閉状態における距離よりも小さくなり、ケーブルガイド 1 にたるみが生じる。特に、半開状態において、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a とがスライド移動方向（車体前後方向）に沿って同位置にあるとき、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a との間の距離が最も小さくなり、ケーブルガイド 1 のたるみ量は最大となる。

【 0 0 2 0 】

この状態では、区間C 2のうち区間C 1側部分が略U字状に屈曲すると共に固定端側部分が直線状となり、また、区間C 1は逆向きに略円弧状に屈曲する。これら区間C 1の略円弧状屈曲部分と区間C 2の略U字状屈曲部分とで、平面視略S字状の屈曲部が形成される。

【 0 0 2 1 】

また、スライドドア7が全開位置P 3にあるとき（全開状態）、ドア側取付部7 aは車体側取付部5 aの側方を通過して、車両方向位置にある。そして、この状態では、車体側取付部5 aとドア側取付部7 aとの距離は、全閉状態における距離よりも小さく、従って、ケーブルガイド1にたるみが生じる。

【 0 0 2 2 】

この状態で、区間C 2のうち固定端側部分が略U字状に屈曲すると共に区間C 1側部分が直線状となり、また、区間C 1は略円弧状に屈曲する。これら区間C 1の略円弧状屈曲部分と区間C 2の略U字状屈曲部分とで、平面視略S字状の屈曲部が形成される。

【 0 0 2 3 】

すなわち、スライドドア7が半開位置P 2及び全開位置P 3にあるときには、ケーブルガイド1が強制的に平面視略S字形に屈曲されることによりケーブルガイド1のたるみが吸収されるようになっている。

【 0 0 2 4 】

また、ケーブルガイド1は、略筒形形状の駒部材3を連結した構成であるため、中空形状を有しており、給電用のケーブル2はケーブルガイド1内に挿通されて車体本体側からスライドドア側に配索されるようになっている。

【 0 0 2 5 】

以上のように、本実施形態によれば、ケーブルガイド1によって案内されて車体本体5とスライドドア7との間に配索された給電用のケーブル2によって、スライドドア7の開閉状態にかかわらずスライドドア7への給電を常時行うことができる。

【 0 0 2 6 】

また、スライド移動されるスライドドア7の移動途中（特に、車体側取付部5

aとドア側取付部7aとの間の距離が最も小さくなっている状態)、すなわちケーブルガイド1にたるみが生じている状態で、ケーブルガイド1が平面視略S字形状をなすように屈曲するように配設されているため、スライドドア7が開閉される過程でケーブルガイドにたるみが生じている際(本実施形態では、スライドドア7が半開状態及び全開状態にある状態)には、ケーブルガイド1のたるみ形状が強制的に平面視略S字形状にされ、これによってケーブルガイド1のたるみ形状を安定させつつ、そのたるみを吸収することができる。このため、ケーブルガイド1にたるみが生じた際に、ケーブルガイド1及びそれによって配索されるケーブル2を収容したり、動きを規制したりするための特別な手段を設ける必要がなく、構成の簡略化が図れる。

【0027】

さらに、ケーブルガイド1及び給電用のケーブル2の長さをスライドドア7の移動量等に応じて過不足無く設定することができるため、給電用のケーブル2を短くすることができ、その結果、電氣的伝達損失、電線コストを抑制することができる。

【0028】

また、給電用のケーブル2のサイズ変更にも容易に対応することができる。

【0029】

さらに、スライドドア7の移動に伴って給電用のケーブル2が捻れるのを防止することができる。

【0030】

さらに、給電用のケーブル2がケーブルガイド1内に挿通されて配索されるため、ケーブル2をケーブルガイド1に沿って確実にかつ容易に配索することができるとともに、ケーブルガイド1によってケーブル2を保護することができる。

【0031】

また、簡単な構造の駒部材3を用いてケーブルガイド1を構成することができる。

【0032】

【発明の効果】

請求項 1 ないし 3 に記載の発明によれば、ケーブルガイドによって案内されて車体本体とスライドドアとの間に給電用のケーブルが配索されているため、そのケーブルによって、スライドドアの開閉状態にかかわらずスライドドアへの給電を常時行うことができる。

【 0 0 3 3 】

また、移動構造体がスライド移動される途中、すなわちケーブルガイドにたるみが生じている状態で、ケーブルガイドが、長手方向の中間部分が平面視略 S 字形状をなすように屈曲するように配設されているため、スライドドアが開閉される過程でケーブルガイドにたるみが生じている際には、ケーブルガイドのたるみ形状が強制的に平面視略 S 字形状にされ、これによってケーブルガイドのたるみ形状を安定させつつ、そのたるみを吸収することができる。このため、ケーブルガイドにたるみが生じた際に、ケーブルガイド及びそれによって配索されるケーブルを収容したり、動きを規制したりするための特別な手段を設ける必要がなく、構成の簡略化が図れる。

【 0 0 3 4 】

さらに、ケーブルガイド及び給電用のケーブルの長さをスライドドアの移動量等に応じて過不足無く設定することができるため、給電用のケーブルを短くすることができ、その結果、電氣的伝達損失、電線コストを抑制することができる。

【 0 0 3 5 】

また、給電用のケーブルのサイズ変更にも容易に対応することができる。

【 0 0 3 6 】

さらに、スライドドアの移動に伴って給電用のケーブルが捻れるのを防止することができる。

【 0 0 3 7 】

請求項 2 に記載の発明によれば、給電用のケーブルがケーブルガイド内に挿通されて配索されるため、ケーブルをケーブルガイドに沿って確実にかつ容易に配索することができるとともに、ケーブルガイドによってケーブルを保護することができる。

【 0 0 3 8 】

請求項 3 に記載の発明によれば、簡単な構造のリンク部材を用いてケーブルガイドを構成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態に係る車両用スライドドアの給電装置の平面図である。

【図 2】

図 1 の給電装置においてスライドドアが開閉される際の様子を示す図である。

【図 3】

ケーブルガイドを構成する駒部材の側面図である。

【図 4】

図 3 の駒部材の正面図である。

【図 5】

図 3 及び図 4 における A - A 断面図である。

【図 6】

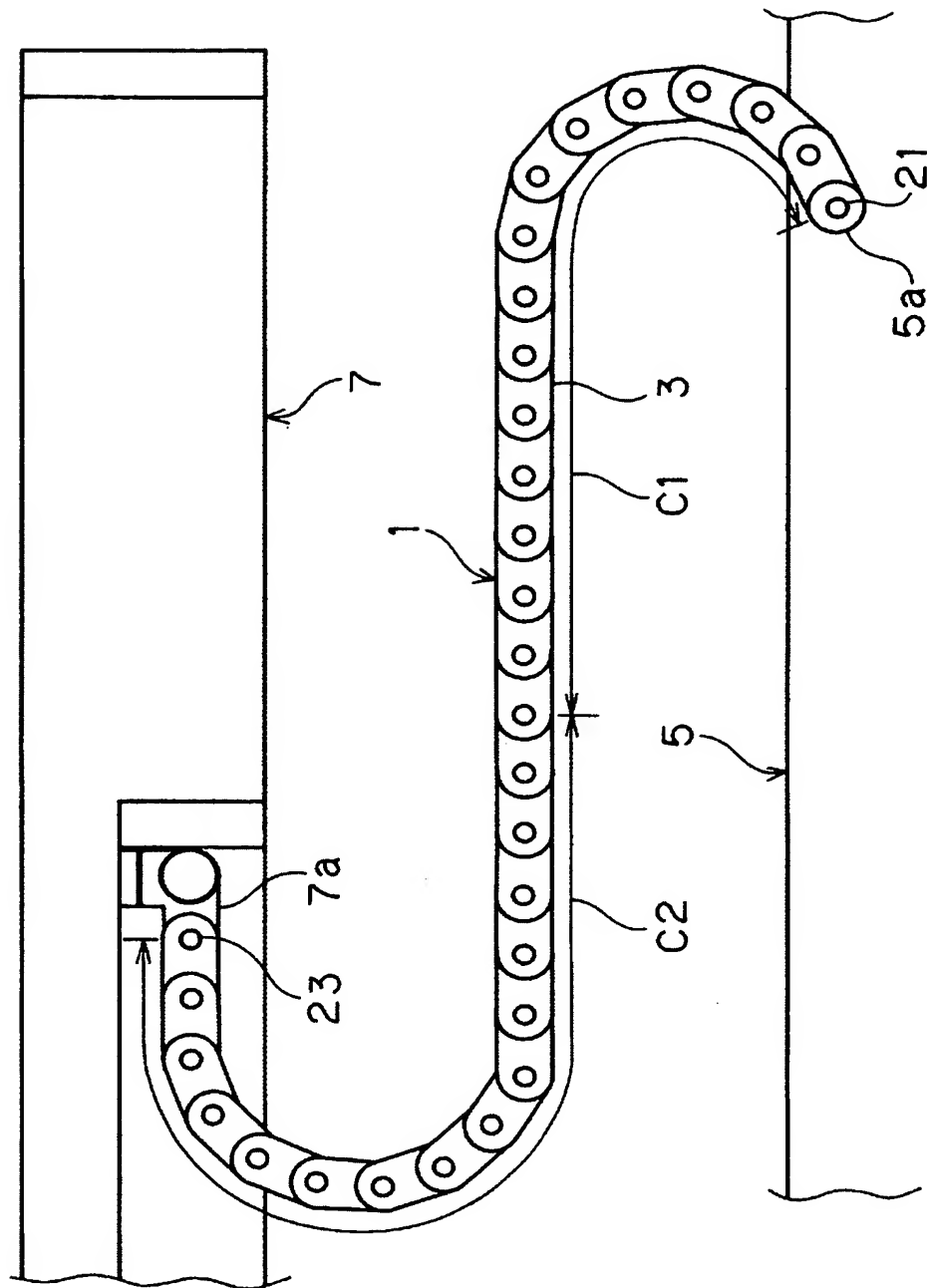
図 3 の駒部材が連結された状態を示す断面図である。

【符号の説明】

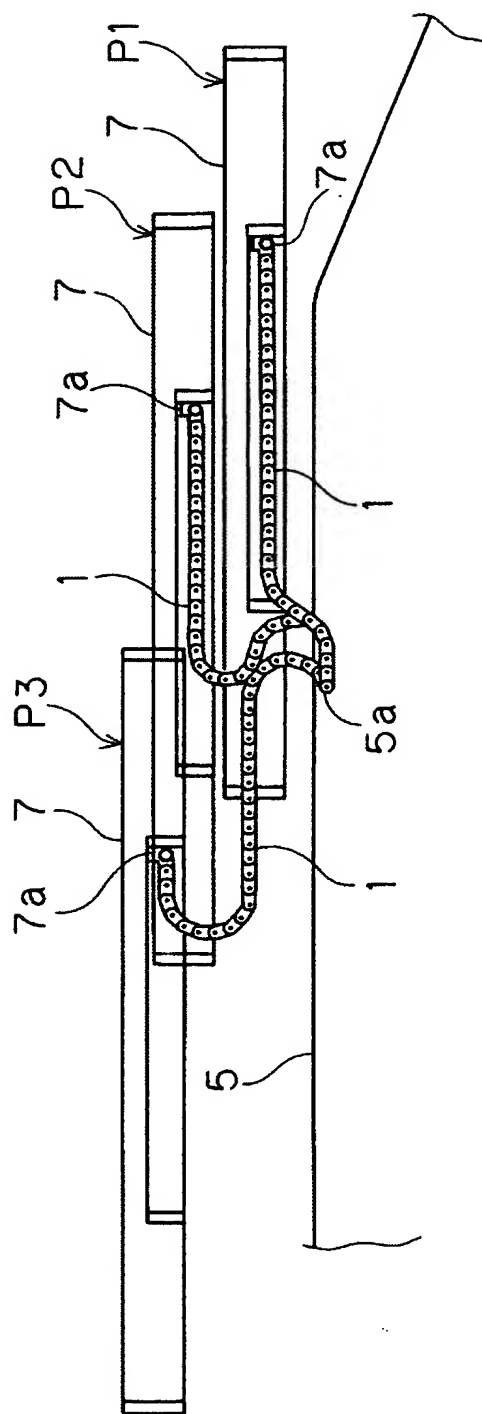
- 1 ケーブルガイド
- 2 ケーブル
- 3 駒部材
- 5 車体本体
- 7 スライドドア
- 1 1 筒部
- 1 3 凸部
- 1 5 受け部

【書類名】 図面

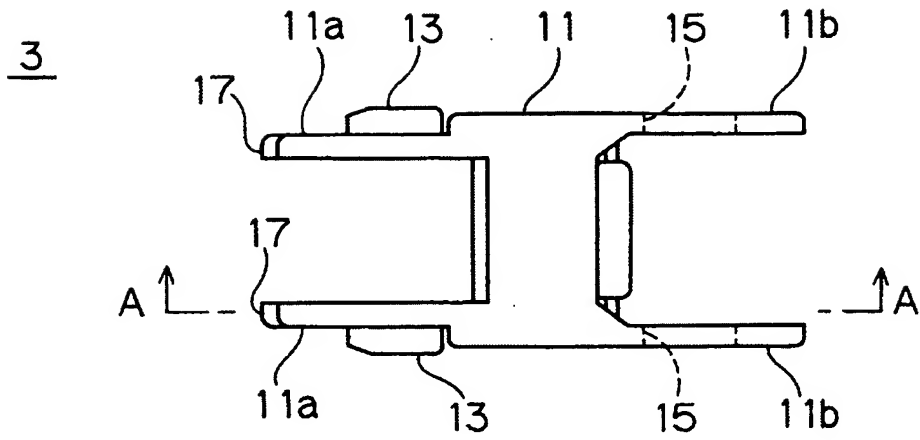
【図 1】



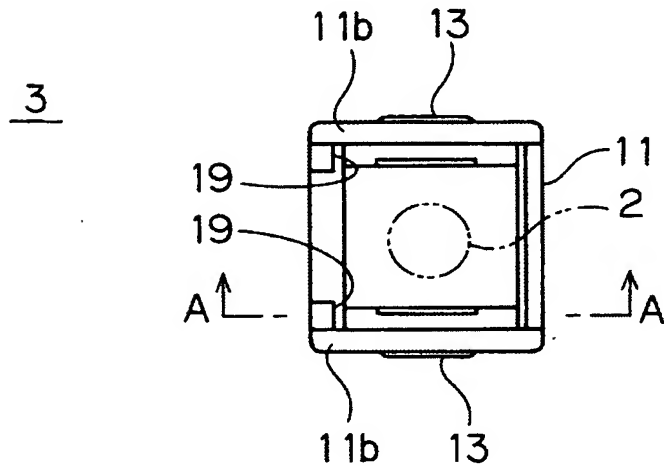
【図 2】



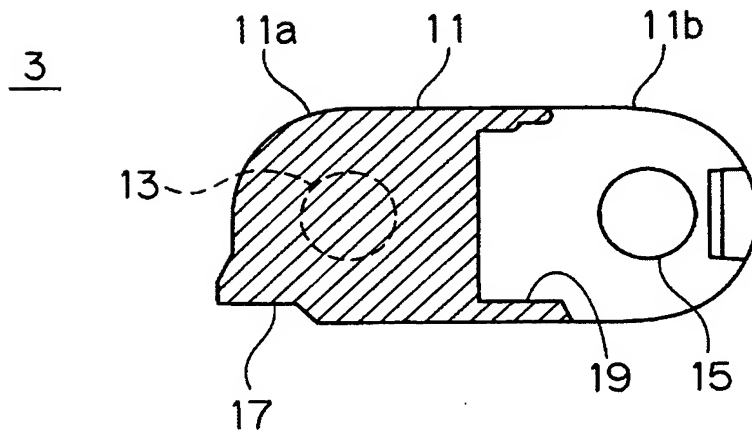
【図 3】



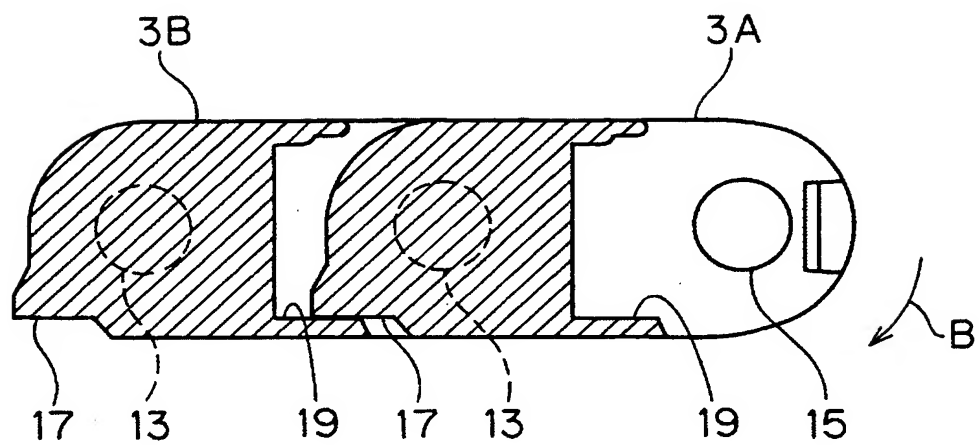
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 スライドドアの開閉状態にかかわらずスライドドアへの給電を常時行うことができる車両用スライドドアの給電装置を提供する。

【解決手段】 この車両用スライドドアの給電装置では、給電用のケーブルが、複数の駒部材 3 を連結してなるケーブルガイド 1 に案内されて車体本体 5 側からスライドドア 7 側に配索される。ケーブルガイド 1 は、長手方向に関して第 1 及び第 2 の区間 C 1, C 2 からなり、駒部材 3 の各連結部における屈曲方向が、同一区間 C 1, C 2 内では同一方向に揃い、かつ各区間 C 1, C 2 同士では互いに逆向きになるように構成されている。そして、移動されるスライドドア 7 が、車体側取付部 5 a とドア側取付部 7 a との間の距離が最も小さくなる位置に位置している状態、すなわちケーブルガイド 1 にたるみが生じている状態で、ケーブルガイド 1 が平面視略 S 字形状をなすように屈曲するように配設されている。

【選択図】 図 1

【書類名】 出願人名義変更届
【整理番号】 P-A020520
【提出日】 平成14年12月18日
【あて先】 特許庁長官殿
【事件の表示】
 【出願番号】 特願2002-191684
【承継人】
 【識別番号】 000005326
 【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社
【承継人代理人】
 【識別番号】 100089233
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 吉田 茂明
【承継人代理人】
 【識別番号】 100088672
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 吉竹 英俊
【承継人代理人】
 【識別番号】 100088845
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 有田 貴弘
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 012852
 【納付金額】 4,200円
【プルーフの要否】 要

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-191684
受付番号	50201918329
書類名	出願人名義変更届
担当官	鈴木 紳 9764
作成日	平成15年 4月 7日

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目1番1号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社
【承継人代理人】	申請人
【識別番号】	100089233
【住所又は居所】	大阪府中央区城見1丁目4番70号 住友生命○ B P プラザビル10階 吉田・吉竹・有田特許事 務所
【氏名又は名称】	吉田 茂明

【承継人代理人】

【識別番号】	100088672
【住所又は居所】	大阪府中央区城見1丁目4番70号 住友生命○ B P プラザビル10階 吉田・吉竹・有田特許事 務所
【氏名又は名称】	吉竹 英俊

【承継人代理人】

【識別番号】	100088845
【住所又は居所】	大阪府中央区城見1丁目4番70号 住友生命○ B P プラザビル10階 吉田・吉竹・有田特許事 務所
【氏名又は名称】	有田 貴弘

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 8 3 4 0 6]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 4 日
[変更理由]	新規登録
住 所	三重県四日市市西末広町 1 番 1 4 号
氏 名	住友電装株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 9 月 6 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
氏 名	本田技研工業株式会社